

英語の *take it that* 節構文の意味と談話機能*

大竹 芳夫 言語教育講座

0. はじめに

英語には、次のような *S+take+it* が節要素を従える構文が存在する（以下、*take it that* 節構文と呼び、用例中の *take it that* の部分を便宜的に斜体字で表示する）。

- (1) a. I ask Mick if he's ever thought about leaving, but he doesn't answer. His eyes glaze over and he just smiles off in the direction of Queen Victoria's midriff. I *take it that* it's a stupid question.
(*The Guardian*, June 14, 1999)
- b. 'I *take it that* you don't care for the sun?' (*The Observer*, August 5, 2001)
- c. Well then I *take it* she isn't here. (T. Lee, *Dark Dance*)
- d. "I *take it* you need something." (映画 *Forever Knight* (1992)の台詞)
- e. "I *take it* you ride horses." (映画 *A View to Kill* (1985)の台詞)

Take it that 節構文の補文標識 *that* は(1c-e)が示すようにしばしば省略される。(1a)は「つまりこれはばかげた質問なのだと察した」、(1b)は「では、彼女はここにいないんですね」、(1c)は「あなたは日差しを気にしないんですね」、(1d)は「君は何かを必要としているんだね」、(1e)は「乗馬をなさるのですね」といった意味を表現する。本研究では、これまで十分に論ぜられてこなかった *take it that* 節構文の基本的意味と談話機能の詳細について、実際に収集した言語資料に基づきながら検証することでその存在理由を明らかにする。

1. *Take it that* 節構文に関する従来の研究

従来 of 記述文法書において *take it that* 節構文がどのように説明されてきたのかを確認しておこう。Quirk *et al.* (1985)は *take it that* 節構文の *it* を外置目的語(*extraposed object*) ととらえ、*it* は省略されえないと説明している。

- (2) In the comparable construction *take it that*, the *it* is obligatory: *I take it that you are enjoying yourselves.* (これと類似する構文 *take it that* においては、*it* は省略できない: 「君は楽しい時間を過ごしているんだね」) (Quirk *et al.* 1985)

Quirk *et al.* (1985)は、*take it that* 節構文の *it* に関して、後続する真の目的節の *that* 節を受け外置目的語であると形式的に分析するに留まっており、その意味や機能に関しては言及していない。しかしながら、本稿で詳しく検証するように *take it that* 節構文はその主節部がしばしば格下げを受けて生ずる点に形式上の大きな特徴がある。

- (3) a. Criticism, I *take it*, is an activity that occurs between equals, whatever its object. (B. Bergonzi, *Exploding English*)
- b. Gold gave David \$500. “I felt there should’ve been more,” Greenglass complained to Roberts, “but somebody gives me money, I *take it*.”
(*The New York Times*, October 28, 2001)

Take it that 節構文の主節部 I take it の生起位置に着目すると、(3a)では文中に挿入節として用いられており、(3b)では格下げを受けて文末に付加的に生じている。このように主節部が格下げを受ける take it that 節構文の it には that 節が後続しておらず、もはや真の目的節を受ける形式目的語であるとは考えがたい。また、take it that 節構文の that 節の補文標識 that はしばしば具現化されないことから、take it that 節構文の it を外置目的語や形式目的語と結び付けて解する積極的な理由はないように思われる。本稿では、take it that 節構文の it の意味特性に着目し、it は that 節内の情報を既定情報としてマークしたうえで談話に導入する機能を果たすという視座に立ちながら分析を進める。

さて、Leech and Svartvik (1994)は、take it that 節構文を平叙文の形をとる疑問文 (questions in statement form) の項の中で取り上げ、次のように文末に上昇音調を伴うと述べている。

- (4) I take it the guests have had something to eat? (Leech and Svartvik 1994)

(4)は「お客さんたちは何か召し上がっていらしたのよね」といった意味を表し、平叙文の語順をとりながらも文末に疑問符を伴って疑問文としての機能を果たしている。このような、平叙疑問文としての take it that 節構文の用法は Quirk *et al.* (1985)を含めて従来の研究では十分に取り上げられていないように思われる。Take is that 節構文の全てが文末に疑問符を伴うわけではないが、本構文を特徴付ける形式であり基本的な用法である。Take it that 節構文の平叙疑問文としての用例に関して、実際に収集した言語データを観察しよう。

- (5) a. “I *take it* you will be teaching engineering?” I asked. “Possibly,” he replied, “but I’m really there to organise Bible study.”
(*The Guardian*, September 22, 1999)
- b. I *take it that* all this stuff about high speed connections is satirical?
(*The Guardian*, December 13, 2001)
- c. I *take it that*’ll be the TV gourmand, not a fat Welsh politician? Is there a fat Welsh politician by that name? (The Guardian, January 15, 2002)
- d. I *take it* then, *that* you don’t like black people?
(E. Mildmay, *Lucker and Tiffany Peel Out*)

上例の take it that 節構文は形式的には平叙文であるにもかかわらず文末に疑問符を伴っており、平叙疑問文としての機能を果たしている。Declerck (1991)によれば、平叙疑問文は口語で頻用され、自分にはすでにわかっていると思われることを相手に確かめたいときに用い

次に、条件を表す *if* や *unless* 節に *I take it* が生じえないのは、*I take it* が客体化される余地がないほど主観的モダリティー表現として凍結度が高いために条件節内に命題内容成分として生ずることができないからであると中右 (1994) は説明している。また、時の接続詞 *when* や *after* は客観的命題内容成分であるため、(7b-c) のような環境では主観的モダリティー表現である *I take it* は生起できないと説明を続けている。中右 (1994) は *take it that* 節構文の主節部 *I take it* が話し手の主観的態度を伝達する部分であることをさまざまな角度から明らかにしており高く評価できる。実際に、後置されて主観的根拠を表す *because* 節内に *I take it* が生起できる用例は手元の言語資料にも確認でき、中右 (1994) の傍証となるであろう。

- (9) a. I include the disfranchised white man as well as the Negro, because I *take it that* we are interested, first of all, in democracy, and unless we can arouse the spirit of democracy, South and North, we can hope for justice neither for Negroes, nor for the poorer class of white men, nor for the women of the factories and shops, nor for the children of the cottonmills. (R. S. Baker, *Negro Suffrage in a Democracy*)
- b. I'm not going to talk very long about the War on Terrorism, because I *take it that* everybody here is against it. I *take it that* everybody here would continue to be against it if the Security Council said that it was the best thing in captivity to have a War on Terrorism. I *take it that* you'd all continue to be against it if we had a vote in the United States and it came out 99% to one percent.
(Paths to a Just and Secure Future: Resisting Washington's Endless War: <http://www.afsc.org/nero/pep/malbert.htm>)
- c. The state troopers would be among witnesses who can testify what did or didn't happen, because, I *take it, that* they're the ones who placed the officer in protective custody. (*Eagle-Tribune*, June 20, 2000)

(9a-c)において、*I take it* は主節に後続する *because* 節に現れて話し手の主観的判断を表現している。ただし、中右 (1994) では *if* 条件節内に *I take it* が生じえないと説明されるが、*if* 条件節と主節とが推論の連鎖を表して、ある情報を認識すると必然的にある認識が生ずることになるといった意味関係を表す場合には生起可能となる。次に示す例は、*I take it* ではなく *we take it* が *if* 条件節に用いられているが、主節に *we assume that ...* (「...を当然だと認めることになる」) や *then we have to grant that ...* (「...をひとまず認めなければならないことになる」) が現れて、*take it that* 節内の情報を認定すれば必然的に主節の情報も認定することになるという意味を表現する。

- (10) a. If we *take it that* the 30-month rule was devised on the basis that the disease virtually always did not show itself until that age, we assume that the animal feed restrictions were in place soundly as from 1 August 1996, but we have gradually discovered that other factors must be involved in this because, of course, animals born more than 30 months after that feed control date have developed the disease.

(<http://www.parliament.the-stationery-office.co.uk>)

- b. If we *take it that* B's claim is not evidently false, then we have to grant that although "in the actual world" has wide scope relative to the rest of A's assertion, it is not rigid.

(M. G. Richard (ed.), *Blackwell Guide to Metaphysics*)

これらの例が示すように、前件の認識が定まれば必然的に後件の認識に至るといった我々の認識の連関を客観的に述べるような場合には条件節中に take it that 節構文を用いることができると考えられる。

最後に、従来の研究ではほとんど指摘されていないが、興味深いことに take it that 節構文が否定を受ける用法も確認できる。

- (11) a. He said the writers themselves had not responded, adding, however: "I *don't take it that* I've whipped them." (*The Guardian*, August 16, 2001)
- b. I *don't take it that* the speaker would be one of the sponsors as somehow implying that it is anything more than what it is; a professional matter of respect. (*Wakefield Observer*, October 30, 2002)

例えば、(11a)は「私は彼らをむち打って駆り立てたのではないのです」といった意味を表す。筆者が収集したデータにおいては(11a-b)のように主節が否定を受ける take it that 節構文の用例は極めて少なく、用法の偏りが確認される。これは、I think that が状況に応じて I don't think that のように否定を受けて発話されるのとは異なり、I don't take it that が用いられるのは相手の誤解を推定し、それを否定するような特別な談話に限られることを示唆するように思われる。次節では、実際の言語事実を観察することで、take it that 節構文の発話のメカニズムを明らかにする。

2. Take it that 節構文の基本的な意味

本節では、take it that 節構文の基本的な意味を考える。まず、従来の学習英英辞典において take it that 節構文の意味がどのように定義されているのかを確認しておこう。Oxford Advanced Learner's Dictionary (2000)は take it (that)に対して suppose と assume による言い換えを与えるに留まり、関連表現である take it from me (that)については「話し手が伝えようとしている内容が真実であることを強調するのに用いられる(used to emphasize that what you are going to say is the truth)」と説明している。Longman Dictionary of Contemporary English (1995)は I take it (that)という表現が「話し手が誰かがある事をして

たり、知っているのを予想することを伝える場合に用いられる(used to say that you expect someone will do something, know something)」という説明を与えている。*Cambridge International Dictionary of English* (1995)は、「I take it は、話し手の発言が、たとえその真偽が証明されていなくても、確実らしいと判断される場合に用いられる(If someone says 'I take it', they think that what they say is likely to be true, even though it is not proved.)」と定義し、take it that 節構文の補文命題が発話時点では必ずしも真であると話し手に判断されていないという重要な事実に着目している。また、*Collins COBUILD English Dictionary* (2001)は「take it を用いるのは、話し手が事実だと信じていることが実際に事実であることや、相手の伝えたいことであると理解していることが実際に伝えたいことであることを相手に確かめる場合である(You can say 'take it' to check with someone that what you believe to be the case or what you understand them to mean is in fact the case, or is in fact what they mean.)」と説明し、take it that 節構文の確認機能について言及している。

以上、簡単ではあるが、これまでの学習英英辞典で与えられてきた take it that 節構文の定義を概観した。これらの知見を踏まえながら、take と it の意味特性に基づいて、take it that 節構文の基本的意味を考察しよう。動詞 take はある情報を自分の理解に「取り込む」ことを意味する。また、大竹 (1994; 2002a), Otake (2002b)ですでに論じたように、it は同一文中の that 節内の命題情報が発話に先立ってすでに情報として確定済みであると話し手が推定していることを積極的にマークする。つまり、take it that 節構文は、話し手がある情報をすでに情報として定まっているものと推定したうえで、その情報を自分の理解に取り込み、認定するという心的な情報処理過程を言語化していると考えられる。さらに言えば、it がマークする情報は、発話に先立って定まった情報であると推定されるが、話し手の知識においてはまだはっきりと認定されてはいない。したがって、take it that 節構文が表す認定の過程において誤りが確認されれば、その誤りを正すことができる。次例では、take it that 節構文に「I'm correcting you」(「認識の誤りを訂正します」)が後続し、相手が誤った方向に向かって情報を認定するのを正していることがわかる。

(12) Police interviewer: Well now you're saying it's the first time before you said you couldn't remember, which is it?

Shipman: Well you're *taking it that* it's a repeat visit, I'm correcting you in saying I can't remember visiting at 3 o'clock, so for me this is the first visit.

(<http://www.guardian.co.uk/shipman/>)

さて、take it that 節構文は、話し手が文脈や状況から推定される命題情報を自動的に認定することを表現する。次の例では、take it that 節構文の主節に必然的な判断を表す be to が現れて、ある情報に対する認定が自動的に成立するものであることを示している。

(13) "Then I am to *take it that* Monsieur Tarzan would prefer to go naked into the jungle, armed only with a jackknife, to kill the king of beasts," laughed the other, good naturedly, but with the merest touch of sarcasm in his tone.

(E. R. Burroughs, *Tarzan of the Apes*)

実際の言語資料を観察すると、take it that 構文が疑問化される場合においても、必然的判断を表す be to と共起する用例が多く確認される。次の疑問文では、{are we / am I} to take it that... といった表現が用いられて、ある命題情報を話し手が必然的に認定することになるかが推しはかられている。

- (14) a. If those belonging to unions who oppose Mr Blair's reforms are "small c conservatives", are we to *take it that* he and those others in his party who are committed to "big C Control" are "small l labour"?
(*The Guardian*, February 5, 2002)
- b. Are we to *take it that* if police were to visit the National Gallery or the British Museum, we would be short of several nativities, not to mention much of figurative sculpture from Ancient Greece onwards?
(*The Guardian*, March 12, 2001)
- c. Are we to *take it that* Arabella Weir has now seen the light and abandoned her misguided Seventies view that the issue of good manners is an area riddled with sexism or other prejudices (Diary, January 29)?
(*The Times*, February 12, 2000)
- d. Now he has been promoted, are we to *take it that* he is happy to see less of his family?
(*The Sunday Times*, June 2, 2002)

(14a-d)にはいずれも be to が現れており、話し手が that 節内の情報を必然的に認識処理することになるかどうかを問うている。さらに、(14a)では if 条件節の帰結部に take it that 節構文が用いられている点にも注意されたい。このように、if 条件節の帰結部に take it that 節構文が現れて、条件を整えばある情報の存在を必然的に認定することになるという意味を伝達する用例は多い。

- (15) a. If, by contextual manipulation, we can reduce the apparent oddness, or at least cause it to be perceived as communicatively appropriate, then we can *take it that* we are dealing with a semantic deviance (although the involvement of grammatical elements cannot be ruled out).
(D. A. Cruse, *Lexical Semantics*)
- b. If that is the average, we can *take it that* many will take longer than that.
(*Bishop's Castle Railway Society Journal*)
- c. From Mrs Nancy Webber Sir, If speed cameras are to be made more visible (letter, December 8), may we *take it that* those of us caught speeding in future will also be charged with driving without due care and attention?
(*The Times*, December 11, 2001)

これらは、いずれも if 節内の条件が整えば、that 節内の命題情報の成立が推定されるものと話し手が必然的に認定することを表現している。つまり、話し手はある命題情報の認定行為を、ある情報を前提条件にすれば必然的・自動的に落ち着く帰結としてとらえている。そのため、take it that 節構文は必然的な帰結を導く談話標識により談話に導入されることも多い。次の(16a-c)では、必然的な帰結・結論を合図する therefore, so, hence に導かれて take it that 節構文が談話に導入されている。Take it that 節構文が then や therefore に導かれている用例(1c), (5d), (13), (23b)も参照のこと。

- (16) a. The amendment proposed follows precisely Mr Mullin's words and therefore I *take it that* it will be acceptable to the noble Lord. I beg to move. (http://www.parliament.the-stationery-office.co.uk)
- b. 'So, I *take it* we look elsewhere,' said Kate, flatly.
(P. Bryers, *The Adultery Department*)
- c. Hence, I *take it that* they were laying down principles in relation to joint and several debtors generally. (*The Weekly Law Reports 1992 Volume 3*)

(16a-c)では、帰結を表す副詞に take it that 節構文が導かれて、ある命題情報が推定されるという認識に必然的に帰着することを示している。

さらに言語資料を観察すると、take it that 節構文が I think we can take it that... という表現形式で提示される用例も多く確認できる。

- (17) a. As Odone is a fervent Catholic, I think we can *take it that* she didn't mean Buddhism. (*The Guardian*, March 30, 2002)
- b. Case closed, m'lu bd, and I think we can all *take it that* the overwhelming public verdict is: guilty as charged. (*The Guardian*, January 24, 2001)
- c. I think we can *take it that* Albert Einstein's image was a matter of choice (Photos can't freeze reality, October 11). (*The Guardian*, October 13, 2001)
- d. I think we can *take it that* he didn't much care for freemasons.
(*The Guardian*, February 24, 2001)
- e. I think we can *take it that* Sir John Bond will not be volunteering to sit on any working parties, review panels or other talking shops that the Government might have in mind. (*The Times*, June 1, 2002)

I think we can take it that...は、「...のだと受け取ってよいように思われる」といった意味を表し、that 節内の命題情報を確定した情報として認識処理するのを妨げる状況がないと話し手が主観的に判断する態度が言語化されている。

ところで、前節でも言及したように、take it that 節構文の主節部 S+take+it は格下げを受けて、文中や文末にコメント節として現れる形式をとることが多い。これは、補文内の情報価値が高いことを意味する。つまり、補文内の情報は it でマークされることにより、すでに定まった命題情報であることが想定されてはいるが、談話においてはじめて言明される情

報であることから、そこが情報伝達上の中心となると考えられる。では、主節部 S+take+it と補文とがコンマイントネーションによって音調上分断される例を考察しよう。まず、take it that 節構文の主節部が文中に生ずる場合がある。

- (18) a. The doctrine is, I *take it*, one from which a modern theorist can hardly escape, or hardly wishes to. (H. Michael and Leech, *G. Style in Fiction*)
- b. And this, I *take it*, is the prospect for our post-democratic 21st century.
(*The Guardian*, August 10, 2002)
- c. Criticism, I *take it*, is an activity that occurs between equals, whatever its object.
(B. Bergonzi, *Exploding English*)
- d. It is for the same reason, I *take it*, that Miles can slyly acknowledge God, alphabetically listed between friends whose names begin with an F and a G, as among those who “helped” him with the book of that title.
(*The New York Times*, December 23, 2001)
- e. This, I *take it*, is what is meant by “costume drama,” a designation that “Children of the Century,” a film by Diane Kurys opening today in Manhattan, pursues with dogged literal-mindedness.
(*The New York Times*, September 13, 2002)
- f. He was, I *take it*, the most perfect reasoning and observing machine that the world has seen, but as a lover he would have placed himself in a false position.
(A. C. Doyle, *A Scandal in Bohemia*)

次に、主節部 S+take+it が主節から格下げを受けて文末位置に生ずる場合がある。*Cambridge International Dictionary of English* (1995)はこの言語現象を指摘し、次のような2つの用例を挙げて比較している。

- (19) a. You’ll be staying the night, I *take it*.
- b. I *take it (that)* you’ll be staying the night.
(*Cambridge International Dictionary of English* 1995)

実際に収集した言語資料においても、take it that 節構文の主節要素が格下げを受けて文末に生起する例が確認される。

- (20) a. You are Sister Cameron, I *take it*. (J. Ashe, *Sweet deceiver*)
- b. You’ve brought it with you, I *take it*. (N. Dibdin, *Ratking*)
- c. Gold gave David \$500. “I felt there should’ve been more,” Greenglass complained to Roberts, “but somebody gives me money, I *take it*.”
(*The New York Times*, October 28, 2001)

さらに観察を進めると、I take it が文末に生ずる場合には疑問符を伴う平叙疑問文の派生形が多く確認される。

- (21) a. He does still want to marry you, I *take it*? (J. Neel, *Death of a Partner*)
 b. This is a recent change, I *take it*? (L. Goodman, *Gemini Girl*)
 c. She's alone I *take it*? (P. D. James, *A Taste for Death*)
 d. You've no phone link, I *take it*? (N. Barber, *The other side of paradise*)

これらの文中や文末に現れる主節要素 S+take+it は格下げを受けて挿入的に用いられている。さらに、本来的に主節要素が現れる文頭の位置においてでさえも {we/I} take it がコンマを介して that 節から独立し、完全な挿入節として機能する用例も確認できる。

- (22) a. We *took it, that* somewhere about the 47th degree, north latitude, would be the place chosen for crossing the country between the river and the Carpathians. (B. Stoker, *Dracula*)
 b. I *take it, that* the earliest standers of mast-heads were the old Egyptians; because, in all my researches, I find none prior to them. (H. Melville, *Moby Dick*)

これらの事実を総合すると、take it that 節構文の主節要素は S+take+it は形式的には主節要素であるが、格下げを受けて話し手のコメントを伝える挿入要素として機能していると考えられる。Take it that 節構文の伝達の中心は補文にあり、挿入的に用いられた主節要素は話し手が補文の情報の存在を確認する役割を果たしているのである。

3. Take it that 節構文の談話機能

前節で確認したように、take it that 節構文は、話し手がある情報がすでに定まっていると推定し、その情報を認定することを積極的に表現する。では、このような基本的な意味をもつ take it that 節構文の機能が発揮されるのはどのような場面であろうか。まず、話し手がある命題情報を認定する態度を確実に相手に伝える必要がある典型的な発話場面として、裁判における審問を挙げることができる。次は、裁判と聴聞会の筆記録からの引用である。

- (23) a. JUDGE DALZELL: [...] Now, I *take it that* by April 1st, that is to say when the plaintiffs complete their case, that the Government will be in a position to tell us yea or nay whether it indeed accepts every paragraph of those stipulations.
 (In the United States District Court: Philadelphia, Pennsylvania, March 21, 1996: http://www.ciec.org/transcripts/Mar_21_intro.html)

- b. Q. To possibly refresh your memory, this man has been in show business, and your testimony is that you don't know that?
 A. Not by name.
 Q. Therefore, I *take it that* you would not be able to testify as to whether he attended that party, is that right?
 A. No, I couldn't testify that he was there.
 (The Clay Shaw preliminary hearing testimony of Perry Raymond Russo:
<http://www.jfk-online.com/pre12russo.html>)

裁判においては、裁判官は法的判断を下すうえで事実をひとつひとつ認定してゆくことが求められる。裁判官の発話に *take it that* 節構文が散見されるのは、裁判官が手元の資料から事実と推定する情報を披瀝することで、被告人や証人に異議がないかを慎重に確認するためであると考えられる。

また、議長が議員からの異議がないことを踏まえたうえで、議案の採択を決する際にも *take it that* 節構文が頻用される。次の例は、国連総会と安全保障理事会での議長の発言である。

- (24) a. The President: [...] Unless I hear any objection, I shall *take it that* the Assembly agrees to consider draft resolution A/55/L.76.
 (United Nations, General Assembly Fifty-fifth session 92nd plenary meeting, February 22, 2001)
- b. The President: [...] Unless I hear any objection, I shall *take it that* the Assembly agrees with this proposal.
 (United Nations, General Assembly 98th meeting, April 8, 1993)
- c. The President: [...] If I hear no objection, I shall *take it that* the Council agrees to this request.
 (United Nations, Security Council 2320th Meeting, December 18, 1981)

国連の議長が議案の採択決定を議員に確認する際の発言であり、「反対意見がなければ、{国連総会／安全保障理事会}は...に同意するものと了解します」といった意味を表す。つまり、これらの *take it that* 節構文は、議員の反対意見がないということは賛意を表すものと議長が自動的に認定することになることを表現している。

さて、*take it that* 節構文は、話し手がある情報を既定として認定する心的態度を積極的に表明する結果、相手にその命題情報の存否を確認することになる。換言すれば、通常の疑問文が聞き手に答えを直接要求するのに対して、話し手がある情報がすでに成り立っていると推定したうえで事実確認をすることを表現する。そのため、聞き手にかかわるようなことながらを確認する場合には、*take it that* 節構文の方が聞き手の事情を十分に考慮しながら導いた推定判断であることをより積極的に伝達することになる。通常の疑問文(25)と *take it that* 節構文が用いられている(26)とを比較しよう。

(25) “Do you ride horses?”

(26)(=1e) “I *take it* you ride horses.”

(25)は聞き手に「乗馬はなさいますか」と直接的に事実確認をしているが、(26)は「乗馬をなさるのですよね」と話し手がもち合せている情報を総合して導く推定を確認しており、聞き手について思慮をめぐらせているという含意を伴っている。

4. まとめ

本稿では、英語の *take it that* 節構文について、実際の言語資料を観察しながらその意味と談話における機能を考察した。談話で頻用される *take it that* 節構文は、話し手がある情報がすでに定まっていると推定し、その情報を認定することを積極的に表現する。併せて、*take it that* 節構文の主節部は、話し手が命題情報に対して心的態度を表明するコメント節としての機能を担うことから、しばしば格下げを受けることを確認した。さらに、*take it that* 節構文は話し手が慎重に相手に事情や実情を確認することが求められる談話などでその機能を発揮することを明らかにしながら、その存在理由を多角的に検証した。

*本稿は、平成14年度文部科学省科学研究費補助金若手研究(B)課題番号14710329「日英語の名詞化補文の普遍性と個別性に関する記述的・理論的研究」(代表者:大竹芳夫)の研究成果の一部である。

References

- Bolinger, D. 1977. *Meaning and Form*. London: Longman. (中右実訳(1981)『意味と形』東京:こびあん書房)
- Declerck, R. 1991. *A Comprehensive Descriptive Grammar of English*. Tokyo: Kaitakusha.
- Leech, G. and J. Svartvik. 1994. *A Communicative Grammar of English*. London: Longman.
- 中右実. 1994. 『認知意味論の原理』東京:大修館書店.
- 大竹芳夫. 1994. 「It is that 構文に関する意味論的、語用論的考察」『英語語法文法研究』創刊号, 117-131. 英語語法文法学会.
- 大竹芳夫. 2002a. 「英語の it's just that 構文に関する実証的考察」『信州大学教育学部紀要』第107号.
- Otake, Y. (大竹芳夫) 2002b. “Semantics and Functions of the *It is that*-Construction and the Japanese *No da*-Construction,” *MIT Working Papers in Linguistics*. Vol. 43. 143-157.
- Quirk, R., S. Greenbaum, G. Leech and J. Svartvik. 1985. *A Comprehensive Grammar of the English Language*. London: Longman.

(2002年12月16日 受理)